

## こどもの姿

### 育 児

もと話をしているとき、その話をききとって友時には友達同志の話し合いに発展させましょう

自分のものとして話をすすめることもいる。こどもが多い。きいて、はやのみこみをし、終りまできかないと対照して非常に目立つ)したことを話すのに夢中になって幼稚園でのこ親も二年目になると無頓着になってきいてやらの中のことや近所のできごとまで、ありのままともいえる。

のあったことを話して、その時の家族の者の行動「わかりやすく話す」のに驚いた。た傷我人のことから自分がけがして入院した時のそれをきいていたこどもの中で病氣したことのあの時のことを話すのにつられて又他のこどもも、いろいろの経験をきき易く話すことどもが多かつ想像して話す場合によくその特徴をつかんで話す。

## 生活態度

### 育 児

いで一人でじっと絵本をみたり、他人の あそびている。又他人のあそびを気にしないで自分の多い。きる。でいろいろと遊びを考えたり、時には先生ので勝手なことをする者もいる。いところを選んであそぶこどももある。ない。時には男女入りみだれて「動物園 ごっこぶ者が多い。ある」ようにのびのびと生活している者が多い。

けてあいさつをしたあと、所持品を一定の場所に見つけるまでの行動が一年保育児のそれと比べて見える者が多い。要なもの大事なものが見つからない時先生の指でやったり、一緒に「さがして」なければ二人で一スに事が運ぶ(一年保育児と非常に相違がある)リズムカルなメロディーをロザさみながらスキップとしている。く集合しても、となり近所の者に「いたづらしたがいしにでかけてなかなか「帰ってこない」で集団

# 一年保育と 二年保育の問題

山 村 き よ

(文京第一幼稚園長)

全領域にわたつてこのように細く観察し反省しながら一年保育児には「無駄な神経を使わせぬように」、又二年保育児には「あくびをさせたり、あともどりとさせぬように」常に反省しながら私共の責任に於て指導効果をあげることに努力してゆかねばならないと思つ。

十一号でのべたことがあまり抽象論に終つたので編集部から「具体的」にと御依頼されたことに対する責任上もう一度実際方面のことにつれてみたいと思つ。今回は紙面も少ないので幼稚園教育の全領域にわたることも、年間を通してのことも不可能と思つたので部分的な生活場面を一学期間だけ「のぞき見」して、その「こどもの姿」から一年保育児の入園当初には過去の指導に細心の注意をはらわねばならないことや、二年保育児のためには過古一年間の教育効果をどのようにつみ重ねてゆかねばならないか大いに考えてみたいと思つ。ことに最近には園児の少ないことが原因して一、二年児の混合組を編成し一人の教師が同じ保育室で指導せねばならない状況があるとき、カリキュラムの展開をどちらに重点をおいて考えるべきか大きな問題だと思つ。次にのべたことは前回にも度々のべているように個人差、家庭環境、幼稚園差などで、ちがった状態にあるところもあると思つ。しかし幼稚園教育の

## 言語生活に表われる

一 年 保 育 児	二 年 保
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつの言葉は知っていても積極的に云えない者がいる。</li> <li>2. 先生対A、B、と一対A一で話をすることはできても友達同志では話せない者が多い。</li> <li>3. こどもから話しかけることは少なく、先生からの話しかけることを待っている者が多い。</li> <li>4. 先生の言葉は理解できるが非常に緊張して、一言一句ききもらすまいと努力し、かたくなって聞いている者が目立つ。</li> <li>5. いつも新鮮味をもって先生の話をきき家庭に帰って話す（母親も一生懸命きき出す）題材が幼稚園生活の中に限られていることが多い。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先生がA、B、のこの違同志で話す者が多く、ともある。</li> <li>2. 他人からきいた話を</li> <li>3. 先生に話しかけたがる</li> <li>4. 先生の言葉を一言二言者もいる。（一年保育児</li> <li>5. 自分の見たもの、経験とはあまり話さない。（母ないこともある）</li> <li>6. 題材が豊富で自分の家を「あっさり」と話すこ</li> </ol>

### （実 例）

- 先生の言葉も理解できて、話す態度もきちんとしているのに、話の内容はいつも同じようなことばかりで同じように経験する（二年保育児と）幼稚園往復途中のできごとなどあまり話さない。誰かが話し出せば話す者もいるが自分から話し出す者が少ない。
- 話し合いや、お話遊びをするふんいきをつくり出すのに時間がかかる。
- 絵本など見る場合に画面を見ている話すことよりも字をよんでくれという者が多い。（二年保育児にも見られることであるけれど二年保育児は字もよむと同時に画面にすいこまれるようにとびついて見る者が多い。）

### （実 例）

- ×一人のこどもが近所に火災や近所の人々のようすなどまたある時は新聞でみてき話にむずびつけて話す、るものが「あっさり」とそ日常生活の中でゆきあたるた。又物を批かしたり、（詳細は略す）

## 全 般 的 な

一 年 保 育 児	二 年 保
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分をとりまく周囲のことに気をつかひすぎる。（友達が見ているとか、泣いていること、けんかをしていること、わるきをしている場合など）一人で遊びを選ぶことができない者が多く、共同遊びをすることも少ない。</li> <li>2. いつも先生の指図を待っている状態が見えたり、自分の行動を一々先生に報告しないと気がすまない者が多い（砂場に行ってもよいか、便所に行ってもよいかなど）</li> <li>4. 先生と一緒にあそび（生活）をすることを非常に喜ぶ。</li> <li>5. 遊びにも行動にも男女差が目立つ。</li> <li>6. 生活全般にわたって「ぎごちなようす」が見える。</li> <li>7. 他人に見られてほめられたり、先生にほめられたりすること非常に喜んでる者が目立つ。</li> <li>8. あの子がどうした、この子が……と他人の行動が非常に気にかかって自分の生活をかたうしくしている者が多い。（家庭にある母親がいつも「いい子でほめられるように」とか二年保育の人達にまけないようにと、はげましている家庭もある）</li> <li>9. 先生の注意を「おこられた」と非常に神経質に考えているこどもが目立つ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周囲のことを気にしなを不安感をもってながめ生活を楽している者が</li> <li>2. 共同遊びがしぜんにで</li> <li>3. 先生の指図をまたないることを全々意識しない</li> <li>4. 先生のいない、見えな</li> <li>5. 男女差があまり目立たなどして面白そうに遊</li> <li>6. 生活全体に「ゆとりが</li> </ol>

### （実 例）

- 友達が自分の席に座っていたときなど、どうしても椅子に腰かけない。五月に鯉鱈りをつくって持ちかえった際となりの友達とのまちがえて帰ったので」あした取りかえましようという先生の言葉をどうしても受けいれず母親と一緒に友達のところにかえに行ったこどももいる。
- お弁当の時お箸を忘れたこどもに用務員室まで取りにやらせることで先生もこどもも非常に神経をつかった。
- 毎日の生活の中で「ゆうづう性」を働かせて微細な動作をすることも少ない。（二年保育児と比かくして目立つこと）
- ×毎日の生活に「ゆうづう性がありすぎて」先生のお手伝いをしたり、作業のおくれている友達の手伝いをしているのに自分の仕事が完全に終わっていないことに気づかない者もいる。（この項は14頁実例例につづく）

### （実 例）

- ×朝登園してから先生を見つおいでから自分のあそびを実にゆったりとのびやかに
- ×忘れものをしたり、何か必図できもちよく友達にかし中よく使うなど、実にスム
- ×全園児が集合する場合などブで集ってきたり、のびの
- ×全体集合の場合など、はやり」まだ見えない友達をき生活をみだすものもいる。